

やまだ文芸広場

・変な年 猛暑だ豪雨だ噴火だと
佐藤 兼男（荒川・88）

・釜石の艦砲射撃の音聞こゆ
十才の日の記憶の中で
澄み渡る 五月の空に死人やく
煙悲しく広がりてゆく
P・N 沢まさ子（山田・？）

・夕暮れの吹きくる風に初蟬の
声を聞きつつ庭草を抜く
・あじさいの藍あざやかに雨のふる
老いて忘れぬ過去のごとくに
内館 洋一（飯岡・72）

サマー夏：
サマーは、英語で夏：
暑い中毎日ご苦勞サマー。
一日のお仕事お疲れサマー。
もうすぐお盆：笑顔で、
迎える来客に来るお客サマー。
佐藤 啓子（船越・37）

みんなの スペース

◆あて先・問い合わせ

〒028-1392（住所不要）山
田町役場総務課情報係（☎82
-3111内線417）へどうぞ。

私の子供時代

昭和十六年、私は国民学校一
年生でした。その頃の記憶は定
かではありません。

四年生かな、出征した働き手
のない家庭に山から「たきぎ」
を背負って手伝ったこと。いま
でいうボランティア、助け合い
はその時から身に付いています。
また、駅前広場は出征兵の見送
りホームも同じでした。汽車か
ら身を乗り出して旗を振り、故
郷をあとに列車は北へ。その心
境を思うと……

私の兄が織笠を通過したとき
旗を落とし、それを母の叔母か
ら届けられた時に不吉な予感が
した、と母はよく話していまし
た。それが現実には昭和十九年、
台湾・高雄で乗っていた船が撃
沈され、今でも異国で眠ってい
ます。

終戦の年の六月ごろから、頭
上は日本機か、敵機か騒音を立
てて、空を見上げることもでき
なかった。警戒警報や空襲警報
が頻繁になってきて、青葉山に
かくれたり、防空壕に入ったり
しました。つぶれるような爆音
や低空飛行の騒音、いま死ぬか、
いま死ぬかと十一歳の心が揺れ
動きました。後で聞いた話では
は、釜石湾から市内への艦砲射



撃だと聞きましたが、当時幼
かった私には定かではありませ
んでした。

八月十五日、屯所の前に「隣」
旅館のラジオが置かれ、近所の
人たちが集まり雑音で聞えな
かったですが、大人たちは日本
が降参したと教えてくれました。
これからどうなるか、大人た
ちと私たちは涙でした。それに
食糧難の時代、母親と鶴住居か
ら乗合バスで出発し、笛吹峠を
ガッタン、ゴットンと、六時間
も掛かって遠野へ。今でも忘れ
られないひとコマです。年金も
ない時代、街角でアコーディオ
ンを弾いている傷痍軍人さんの
前を通るとき、心痛めました。

復興の兆しが……。大槌駅前に
マーケットが立ち並び、木下
サーカスや、村では九十代の人
たちが演芸会などで皆さんも心
が落ち着いてきたと思いましたが、
戦前、戦後をたぐると国民で
なく戦争維持と聞いてがく然と
しました。何のための戦争だっ
たか……

菊地 サカエ（織笠・80）

町長室から

お不動様の例大祭が来る
と、間もなく夏の到来であ
る。そしてお盆、お祭りとし
時は駆け足で進む。7月3
日、東京深川にある富岡八
幡宮の高橋総代連合会長が、
義援金を携えてお見えにな
った。同神社をお手伝い
している千葉さんの奥さま
が山田町出身の縁でご支援
頂いている。今回が3度目
の来庁である。富岡八幡宮
は江戸三大祭りで有名で、
繰り出す神輿の数が大小1
20数基。担ぎ手2万人、
観客が60万人という祭りだ
ある▼高橋会長は、一昨年
の天覧祭を取り仕切った
方で、現在は顧問という肩
書。過去には本町から神輿
の担ぎ手を招待して頂いた。
見るからにねじり鉢巻きと
絆纏が似合いそうな方で、
押し出しもよく笑顔の素敵
な、江戸っ子とはこんな方
なのだろうと思わせる粋な
人である。別れ際に笑顔で
そのうちまた来るから、と
言って去って行った。そこ
には心地よい風があった。

山田町長 佐藤 信逸

石原詢子 ミニ・コンサート

NHKBSプレミアム「きらり！えん旅」の番組で、ふるさと自慢を訪ね歩いた石原さんがミニ・コンサートを行います。

観覧は無料ですが、整理券が必要となりますので、ご希望の方はお申し込みください。

期日 9月13日(日)

時間 午後2時開演

場所 町中央公民館大ホール



石原詢子さん

▷応募方法 往復はがきに▶往信用裏面…郵便番号、住所、氏名、電話番号▶返信用表面…郵便番号、住所、氏名——を明記の上、下記の宛先に申し込みください。

※応募多数の場合は抽選の上、1枚で2人が入場できる整理券をお送りします。

▷応募先 〒980-0012仙台市青葉区錦町1-10-11 NHKプラネット東北「きらり！えん旅・山田町」係

▷応募期限 8月24日(必着)

◆問い合わせ NHKプラネット東北(平日・午前9時半～午後6時 ☎022-215-1732) へどうぞ。

町民時計を作ります

山田町子どもまちづくりクラブのメンバーが、地域と連携して企画・デザインした「(仮称)山田町子ども交流センター」が、陸中山田駅前に来年1月末に完成し、来春開館する予定です(同施設の起工式については7頁「町のわだい」参照)。

子ども支援の国際NGOセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンは、子どもからお年寄りまで町民の皆さんの写真をつなぎ合わせたデジタル時計を制作し、この施設に設置します。9月から来年3月に向けて、町内のイベントなどを通じて写真撮影会を実施していく予定です。

復興に向けて、皆さんの笑顔がいっぱいの時計と一緒に作りませんか？ ご参加お待ちしております！

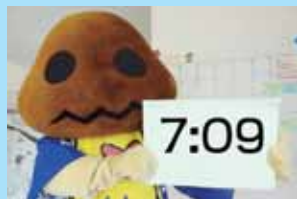
▷実施時期 9月～来年3月

▷対象 山田町に住む子どもと大人

▷参加費 無料

※開催日や場所などの詳細については、決まり次第広報等を通じてご案内します。

◆問い合わせ (公社)セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン(担当・山田 ☎090-2636-3227/Eメール clcya.mada@savechildren.or.jp) へどうぞ。



葉月(八月)

新緑の真つただ中。既に一年の半分が過ぎ、地域では農業も漁業も最盛期を迎えています。加えて、各地においても夏祭りを盛上げ、震災後の復旧復興を願いつつ、御興をかついでワッショイ、ワッショイと勇壮な掛け声。その中に真つ黒に日焼けした海の男の願があり、浜の男の生きがいを感じる気がして血が騒ぐ...

私的な事を申してすみませんが、湾台生れの湾台育ち、お祭り大好きな人間で、この度、旧船越村の鎮守の杜、三陸一宮荒神社の籠拝殿の新築落成を祝う夏祭りが挙行されました。町内外の崇敬者でコッパネ浜は溢れかかり、大船・小船の曳き船による海上渡御も無事に治まり、地域の無事と安泰の一切を済ませました。私たち湾台虎舞も、荒神大神楽、山ノ内剣舞とともに祭り事に参加し、地域の復旧・復興はもちろんのこと、今後の安泰を祈願しました。門打舞を披露して宿に戻るのが、

今は五体がままならず皆さまの足手まといになり、迷惑ばかりかけております。氏子関係者とともに、約数百年を数える荒神社の伝統と地域の発展、幸福が一日も早く訪れることを祈願し、限らない神様のご加護のあることを念じて、伝統を絶さないようにして行きたいものです。

西館 隆(船越・82)



イラストコーナー

皆さんのイラストお待ちしております



P.N. だえき (大浦・14)